

「まち」と「交通」を未来志向でアップデート

～4者連携で北九州モノレール沿線のまちづくりを始動！～



—— 社会課題を、超えていく。 ——



まちに、夢を描こう。



北九州市のシンボル モノレール



「銀河鉄道999」号出発記念写真展最優秀受賞作品（奥村 真琴様撮影）

モノレール沿線の発展

まち

✓北九州工業地帯の発展

✓都市部への人口流入による住宅需要の高まり

✓徳力団地等の大型団地の建設



西日本新聞社提供

✓宅地開発の進展と現在のモノレール沿線で人口増

交通

1970年～

✓路線バス網の発達



所蔵 西日本鉄道株式会社

1980年～

✓モノレール開業 (1985年)



1990年～

✓モノレール小倉駅延伸 (1998年)

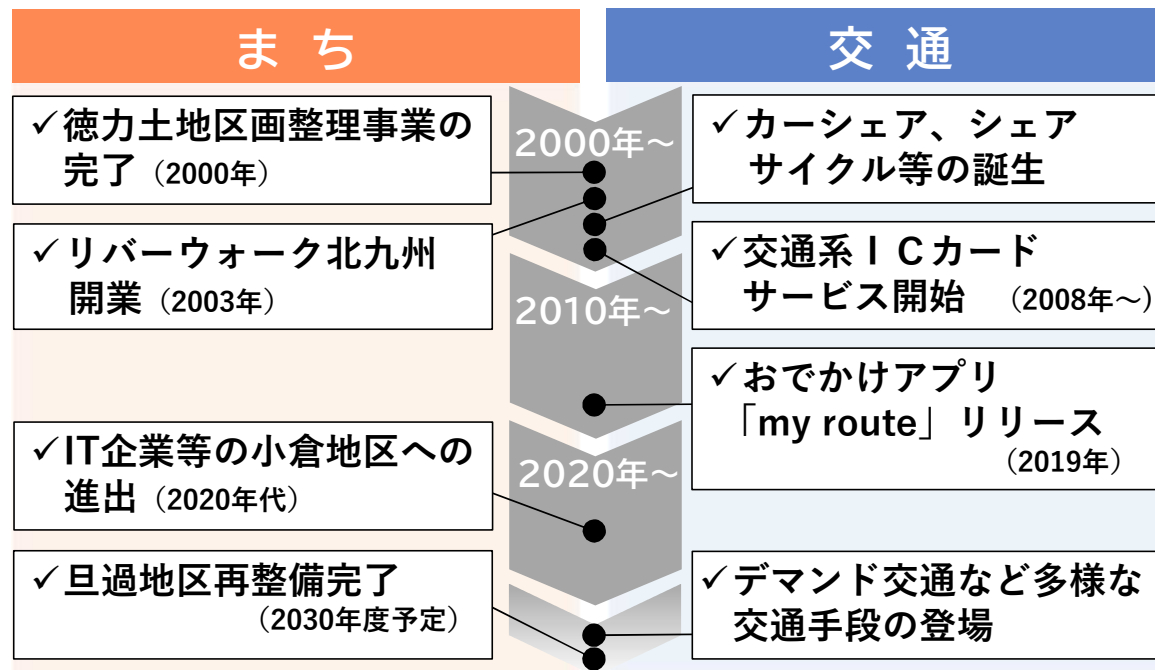
●核家族化の進行

●モータリゼーションが進み、国道3号、10号、322号をはじめ、市内主要道路の慢性的な渋滞

●自家用車の世帯あたりの普及台数が1台を超える (1996年)

本資料に掲載されている文章・画像・データ等の無断転載・複製を固く禁じます。

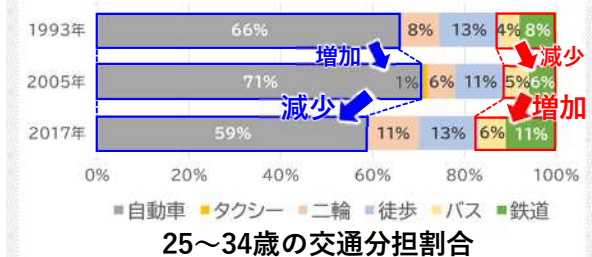
モノレール沿線の発展



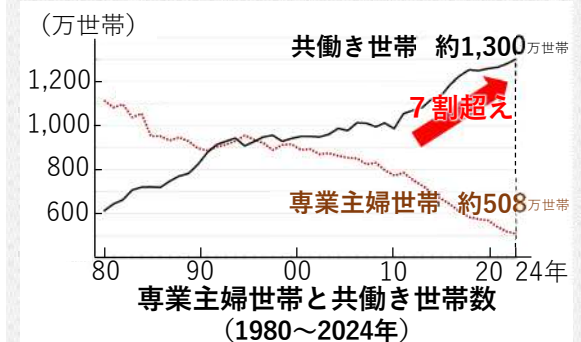
忙しい共働き世帯や住まいの近くで働く人の増加
公共交通をよく利用する若い世代の増加

暮らす場所として
生活と交通の利便性を重視するニーズ

● 若者の公共交通分担割合が増加に転じる（2000年以降）



● 共働き世帯の増加（2010年以降）



総務省統計局「労働力調査特別調査」、総務省統計局「労働力調査（詳細集計）」を基に作成

● テレワークの普及や多様な働き方・住まい方の広まり（2020年以降）

モノレール沿線のまちづくり

まち

- ✓ 現在の生活様式及びニーズに合った魅力と特徴のある新たな機能の集積

×

交通

- ✓ 拠点性とまちの特徴を活かした公共交通の再構築



- モノレール沿線の魅力向上
- まちと交通が連携する成功事例



- 定時性・速達性に優れる大量輸送機関



- 全国で多くの都市再生の実績
- モノレール沿線に多くの賃貸住宅



- ニーズに合ったきめ細かな輸送機関



次の時代を担う若い人たちに選ばれる
未来を見据えたまちづくりを目指す



徳力公団前駅周辺 に着目

徳力公団前駅周辺からモノレール沿線の 価値を向上

まち

大規模団地が存在しており、モノレール駅のなかで比較的駅勢圏に人口が多い

→機能集積による効果が期待できる

交通

小倉駅から一定の距離があり、東西南方面からの路線バスがモノレール駅にアクセスしやすい

→郊外部の交通拠点とすることで、
公共交通再構築による効果が期待できる

高いポテンシャルを活かして、
現代・未来のライフスタイルに合った地域拠点の形成



まちづくりのイメージ



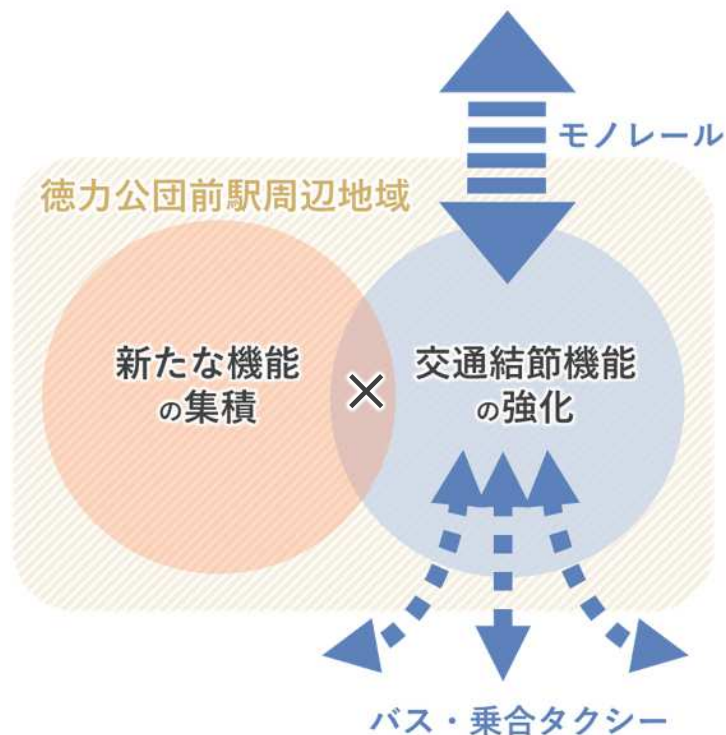
子どもがのびのび育ち
安心して子育てできる環境



若い共働き世代の
ニーズに合った新たな機能



目的地となりうる機能



各交通機関の乗り継ぎ強化



公共交通の利用環境の向上

「まち」と「交通」を未来志向でアップデート